◆ 文京都税事務所長賞 ◆

「税」の意義

文京区立第六中学校 3年 山根 理沙

最近、私が通っている学校の給食が無償化された。給食が無償化されたことで、親が学校に給食費を支払う必要が無くなるため手間が省けたり時間が削減されたりした。また、学校に通う子供全員が安心して給食を食べられるようになるなど、給食の無償化によって多くのメリットがあった。一方で、給食費は何によって賄われているのかが気になったため、調べてみると、自治体や国が公費を用いて賄っていることが分かった。いわゆる、税金である。私たちが普段から払っている税金は給食の無償化のほかは何を賄っているのか、身近なところから三つ挙げたいと思う。

まず始めに一番支えられていると思ったのは、教育費だ。私が通っている公立の中学校は、ほかの私立中学などと比べるとはるかに学費が安い。学費が安く抑えられることによって多くの子供たちが学校に通い、質の高い教育を受けることができる。また、教材や校舎、一人一台配布されるようになったパソコンなど、より良い学習ができるようにするための環境が税金によって整備されていった。さらに、今年度から東京都の高校の授業料が無償化されたことで、金銭的な負担が大幅に軽減されて進路選択の幅が広がった。

次に、医療費だ。義務教育就学児医療費助成制度という制度によって、今まで私は体調を崩して病院を受診して薬が処方されて医療費がかかったとしても費用が軽減された。そのため、子どもが病院を受診して治療を受けやすい環境が作られて健康に育つ子どもが増え、子育て世代への支援になっている。また、ワクチンなどの感染症対策や病気の予防のためにも税金が使われている。

最後に、安全に生活するために必要なお金だ。道路にある信号機やガードレール、カーブミラーなどの交通事故を防ぐためのものが主に税金で賄われている。また、近所にある交番やパトカー、消防車や救急車など、人が安心して暮らすために必要な場所やものなども税金で賄われている。特に、救急車は日本では無料である一方で、欧米の大半の国では一般的に有料であることに驚いた。

五年前に消費税の税率が八%から十%に引き上げられたことなどもあり、税率を下げることで手元のお金を増やしてお金を今よりももっと使ってもらって経済を発展させていくために減税が実施されていたり、「税金をなくす」という意見があったりしていることが分かった。税金がなくなることで商品の購入やサービスの利用で個人の負担額が減るが、税金がなくなってしまうと、先ほど挙げた三つの仕組みや給食の無償化などの制度を実現することが不可能になってしまう。こういったことから、税金を悲観的に捉えるのではなく、社会の一員として安心安全でより過ごしやすい社会を互いに支えあって作っていくものであり、公平でいて平等な社会を作る為に重要なものだと捉えることが大切だと感じた。